

和歌山という宝箱

レスト アムリゴ テラウムバヌア
日本語・日本文化研修留学生 インドネシア

子どもの頃の私にとって、日本は遠い憧れの国であり、和歌山という地で学び、暮らすことになるとは夢にも思わなかった。高校を卒業した後、大学へ進学することは簡単なことではなかった。経済的な事情やさまざまな困難があり、進学について何度も悩んだことを今でも覚えている。

しかし、私は夢を諦めなかった。勉強を続け、自分なりに努力を重ね、祈りながら前へ進み続けた。その結果、インドネシアの大学に進学することができた。そして、その頃から私の夢は少しずつ大きくなっていった。私は日本語や日本文化、そして日本の歴史に興味を持ち、日本語を学び始めた。だが、その日本語が私を和歌山へ導いてくれるとは思ってもいなかった。現在、私は和歌山大学の留学生として学んでいるが、この地で経験した数多くの出来事は、私の人生にとって、かけがえのない財産となっている。

私にとって、和歌山は「宝箱」である。

その宝は、単なる観光地や有名な建物ではない。ここで出会った歴史、文化、人々、そして経験の一つ一つが宝物なのである。そして、それらは互いに結び付いており、私自身を成長させてくれた。私が初めて和歌山を訪れたのは、和歌山大学へ留学する前の2024年であった。その時、私は和歌山城を訪れた。もともと私は日本史が好きで、特に戦国時代や豊臣秀吉、関ヶ原の戦い、そして徳川家の歴史に強い関心を持っていた。そのため、かつて紀州と呼ばれたこの地域がどのような歴史を歩み、現在の和歌山へと発展したのかを知りたいと思うようになった。その歴史への興味は、和歌山でのさまざまな経験へとつながっていった。大学の授業では博物館を訪れる機会があり、紀の川流域や和歌浦周辺に形成された古代の集落について学んだ。また、古墳時代の人々の暮らしや文化についても知ることができた。教科書の中でしか知らなかった歴史が、実際の資料や展示物を通して目の前に現れたとき、私は大きな感動を覚えた。そして、和歌山が日本文化や歴史の形成において重要な役割を果たしてきたことを実感した。

中でも、印象に残っているのは、日本人の友人たちと一緒に高野山を訪れた経験である。そこでは多くの歴史的な場所を巡りながら、友人たちがそれぞれの場所の歴史を丁寧に説明してくれた。私は弘法大師空海について学び、彼が日本仏教に与えた大きな影響を改めて知った。高野山は単なる観光地ではなく、日本の精神文化を支えてきた重要な場所であることを理解した。

また、熊野古道や那智の滝を訪れた経験も忘れられない。何百年もの間、多くの人々が歩いてきた道を自分自身の足で歩いたとき、歴史と自然、そして人々の信仰が深く結び付いていることを感じた。静かな森の中を歩きながら、私は教室では学ぶことのできない日本の魅力を体感したのである。しかし、和歌山が私に与えてくれたものは歴史だけではない。和歌山は、人との出会いの大切さも教えてくれた。私はWin Concordで行われる国際交流活動に参加し、多くの留学生や外国人住民、日本人の方々と交流する機会を得た。そ

ここでは国籍や文化の違いを超えて、お互いの国について語り合い、一緒に遊び、笑い合った。異なる背景を持つ人々と出会うことで、自分の考え方が広がり、世界にはさまざまな価値観があることを学んだ。和歌山大学の国際交流プログラムで太地町を訪れたことも印象に残っている。鯨の博物館を見学し、旅館に宿泊し、温泉を体験した。さらに、地域の人々の暮らしや文化について学ぶ機会もあった。太地町は決して大きな町ではないが、長い歴史と独自の文化を大切に守り続けている。その姿から、地域文化を継承することの大切さを感じた。

特に忘れられない経験は、和歌祭りへの参加だ。私は「唐人」として行列に参加した。日本の祭りに参加するのは二度目であったが、和歌祭はこれまで経験した祭りとはまったく異なる魅力を持っていた。祭りの背景には紀州徳川家との深い関わりがあり、私は歴史好きとして大きな感動を覚えた。また、祭りを通して多くの日本人と知り合い、地域の人々が伝統を大切に受け継いでいる姿を間近で見ることができた。

こうして振り返ってみると、私が和歌山で経験したことはすべてつながっているように思う。歴史への興味が私を和歌山へ導いた。和歌山が新しい人々との出会いを与えてくれた。その出会いが新しい経験を生み出した。そして、その経験が私の世界をさらに広げてくれた。だからこそ、私は和歌山を「宝箱」と呼びたいのである。

その宝箱の中には、歴史がある。文化がある。美しい自然がある。そして何よりも、人との出会いがある。それらはお金で買うことのできない、かけがえのない宝物である。私は留学生として和歌山へ来た。当初の目的は日本語を学ぶことであった。しかし、実際に得たものはそれをはるかに超えるものであった。

私はここで新しい価値観を学び、多様な文化への理解を深め、人とのつながりの大切さを知った。そして、自分自身の可能性についても改めて考えるようになった。和歌山は、世界的に見れば東京や大阪ほど有名な場所ではないかもしれない。しかし、この地には長い歴史の中で育まれてきた文化や伝統があり、そして温かい人々がいる。

私はその魅力を実際に体験することができたことを心から幸せに思う。将来、インドネシアへ帰国した後も、和歌山で得た経験や思い出は決して消えることはないだろう。私の心の中には、これからもずっと「和歌山という宝箱」が残りに残る。そして、その宝箱の中に詰まった数え切れないほどの宝物は、これからの人生を歩む私を支えてくれるに違いない。



Wakayama, Sebuah Kotak Harta Karun

**Restu Amrigo Telaumbanua
Indonesia**

Saya berasal dari sebuah pulau kecil di Indonesia dan tidak pernah membayangkan bahwa suatu hari saya dapat belajar di Jepang. Melalui berbagai perjuangan, kerja keras, dan doa, saya akhirnya berhasil melanjutkan pendidikan hingga memperoleh kesempatan menjadi mahasiswa pertukaran di Universitas Wakayama. Kesempatan ini membawa saya pada pengalaman-pengalaman berharga yang mengubah cara pandang saya terhadap dunia.

Bagi saya, Wakayama adalah sebuah kotak harta karun. Harta karun tersebut bukan berupa benda berharga, melainkan pengalaman, pengetahuan, dan pertemuan dengan banyak orang yang saya dapatkan selama tinggal di sini. Ketertarikan saya terhadap sejarah Jepang, khususnya masa Sengoku, Toyotomi Hideyoshi, Pertempuran Sekigahara, dan keluarga Tokugawa, membuat saya semakin tertarik mempelajari sejarah Wakayama. Kunjungan ke Kastil Wakayama, museum, serta berbagai tempat bersejarah membuat saya menyadari bahwa Wakayama memiliki peran penting dalam perkembangan sejarah dan budaya Jepang. Selain itu, saya berkesempatan mengunjungi Koyasan, Kumano Kodo, dan Air Terjun Nachi bersama teman-teman Jepang. Dari pengalaman tersebut, saya belajar bahwa sejarah, alam, dan kepercayaan masyarakat Jepang saling terhubung erat. Saya juga memahami pengaruh besar Kukai dalam perkembangan agama Buddha di Jepang serta pentingnya Wakayama dalam sejarah spiritual Jepang. Wakayama juga mempertemukan saya dengan banyak orang dari berbagai negara dan latar belakang. Melalui kegiatan internasional seperti Win Concord dan berbagai program pertukaran budaya, saya belajar menghargai perbedaan budaya, memperluas wawasan, dan menjalin persahabatan yang melampaui batas negara. Pengalaman mengunjungi Taiji juga memberi saya kesempatan untuk mengenal budaya lokal, kehidupan masyarakat, serta pentingnya menjaga tradisi daerah. Salah satu pengalaman yang paling berkesan adalah ketika mengikuti Wakamatsuri sebagai seorang Toujin. Melalui festival tersebut, saya tidak hanya merasakan kemeriahan sebuah matsuri, tetapi juga memahami hubungan erat antara tradisi, sejarah Wakayama, dan keluarga Tokugawa. Pengalaman ini semakin memperdalam kecintaan saya terhadap sejarah Jepang sekaligus mempererat hubungan saya dengan masyarakat setempat.

Ketika melihat kembali seluruh pengalaman tersebut, saya menyadari bahwa semuanya saling terhubung. Ketertarikan saya terhadap sejarah membawa saya ke Wakayama, Wakayama mempertemukan saya dengan banyak orang, dan pertemuan-pertemuan itu membuka berbagai pengalaman baru yang memperluas dunia saya. Oleh karena itu, bagi saya, Wakayama bukan hanya tempat belajar bahasa Jepang, melainkan sebuah kotak harta karun yang berisi sejarah, budaya, alam, persahabatan, dan pelajaran hidup yang akan selalu saya bawa sepanjang hidup saya.

